



鉄道友の会 選定 2022年 島秀雄記念優秀著作賞決定

■単行本部門（3件）

- ・ 関田克孝『帝都電鉄』、ネコ・パブリッシング（2019）
- ・ 青森恒憲（著）・モデルワーゲン（編）『立山砂防軌道』こー企画（2021）
- ・ 今井啓輔『北海道の殖民軌道』レイルロード（2021）

■定期刊行物部門（3件）

- ・ 服部朗宏「私鉄のキハ 17 系概観」『鉄道ピクトリアル』電気車研究会、No. 980～No. 981（2020.12～2021.1）
- ・ 市原純編「証言・DD51 成田空港ジェット燃料輸送」『J-train』イカロス出版、No. 81（2021.4）
- ・ 早川淳一「”トレインスポッター”の眼で記録した北海道の鉄道 1981～2021」『鉄道ピクトリアル』電気車研究会、No. 988（2021.8）

■特別部門（1件）

- ・ 『ホジ 6014 号蒸気動車のすべて』リニア・鉄道館（2021）の出版および関連する企画に対して

鉄道友の会（会長・佐伯洋、会員約 3,000 名）は、島 秀雄記念優秀著作賞選考委員会（選考委員長・大賀寿郎）による選考のもと、2022 年島 秀雄記念優秀著作賞として、上記の単行本部門 3 件、定期刊行物部門 3 件、特別部門 1 件の合計 7 件を選定することに決定いたしました。

賞の趣旨、選定対象の解説、選定理由などについては、別紙をご覧ください。

2022年 島 秀雄記念優秀著作賞選定対象の解説・選定理由

■単行本部門（3件）

・関田克孝『帝都電鉄』ネコ・パブリッシング（2019）

帝都電鉄は、1933（昭和8）年に開業した私鉄ですが、紆余曲折を経て現在の京王電鉄井の頭線となりました。この著作は、帝都電鉄時代の会社創立以来の資料や写真を収集してまとめており、さらに他社への合併後の戦後の動向についても解説を加え、私鉄の歴史をたどる記録資料として価値が高い著作です。本書によって帝都電鉄の成立から京王井の頭線となった現在までの運行主体の歴史と車両の発展を詳細かつ体系的に知ることができます。資料の発掘のみならず著者自身の調査や観察にも基づいて構成している点は車両史研究の見本ともいえるべきであり、井の頭線の歴史、特に車両に関する記録としては定本となる内容です。これらの点を高く評価し、本賞にふさわしい作品として選定しました。

・青森恒憲（著）・モデルワーゲン（編）『立山砂防軌道』こー企画（2021）

立山砂防軌道は、旧内務省によって建設された工事用の専用軌道で、1929（昭和4）年に最初の路線が開業し、現在は国土交通省立山砂防事務所によって管理されています。軌間610mm、全線単線で、現在の路線延長は17.7kmあり、標高差約640mを登坂するため8箇所38段のスイッチバックを設け、最大勾配は83.3%に達します。この著作は、著者が約40年前に訪問した記録をまとめた写真集です。現在では当時のように自由に撮影できなくなっており、その意味でも貴重な記録といえます。写真を主体として構成されていますが、印刷、レイアウトも優れており、本賞にふさわしい作品として選定しました。

・今井啓輔『北海道の殖民軌道』レイルロード（2021）

北海道特有の交通機関であった簡易軌道（殖民軌道）について、関西在住の著者が、何十回と北海道を訪問し、膨大な時間と手間をかけ、道内各所で地元住民に運行当時を聞き取った成果をまとめた労作です。簡易軌道については、すでにいくつかの著作が出版されていますが、本書の特徴は地元の約350人におよぶ聞き取り調査の結果をまとめた点にあり、略図や当時の写真を交えて個々の聞き取りを路線別に紹介しています。聞き取り調査の記録を路線別に再整理した点がユニークで、路線図、引用文献、参考文献とともに適切にまとめられ、鉄道趣味者だけでなくそれぞれの地域研究としても価値の高い出版物であることから、本賞にふさわしい作品として選定しました。

■ 定期刊行物部門（3件）

・ 服部朗宏「私鉄のキハ 17 系概観」『鉄道ピクトリアル』電気車研究会、No. 980～No. 981（2020. 12～2021. 1）

キハ 17 系は、国鉄の一般形気動車として 1953（昭和 28）年に登場し、ローカル線を主体として全国で活躍しましたが、国鉄のみならず私鉄にも影響をあたえました。基本的な構造はキハ 17 系に準拠しつつ、それぞれの路線の特徴を踏まえた仕様変更を施した車輛が各地に登場したのです。本記事は、それらをつぶさに調べ、特徴を明らかにしています。文献や写真の渉猟、現車調査、そして自身の考察による系統化によって組み立てられた分かりやすい記事は、車両観察趣味の一つの完成形を示し、広い視点から一時代の私鉄気動車を俯瞰する内容となっています。車両の導入経緯、構造、履歴といった基本的な内容を網羅し、堅実なまとめ方に著者の視点に基づく考察が加わり、車両史研究の模範となるものであり、本賞にふさわしい作品として選定しました。

・ 市原純編「証言・DD51 成田空港ジェット燃料輸送」『J-train』イカロス出版、No. 81（2021. 4）

昭和 50 年代に行われた成田空港（新東京国際空港）へのジェット燃料輸送について、当時の機関士や関係者 5 名へのインタビューをまとめた記事で、関係者の高齢化と「一定の時間経過」という時機をとらえ、鉄道史・昭和史の記録として企画されたことに意義があります。成田空港のジェット燃料輸送は当時の社会情勢が複雑に絡み、記録として扱いが難しいテーマですが、当事者達に何があったかを冷静に聞き出し、機関士や関係者への証言としてあくまで冷静・客観的にまとめ、記録したことにこの作品の意義があります。DD51 形ディーゼル機関車の運転史としてのみならず、現代鉄道史の史実を明らかにした点を評価し、本賞にふさわしい作品として選定しました。

・ 早川淳一「”トレインスポッター”の眼で記録した北海道の鉄道 1981～2021」『鉄道ピクトリアル』電気車研究会、No. 988（2021. 8）

トレインスポッター（Train Spotter）は、列車の編成をメモに記録する鉄道趣味のジャンルのひとつで、特にイギリスでさかんに行われています。著者は、列車の編成を約 40 年にわたって記録し続けてきましたが、本記事はその中から北海道の列車編成の変遷に焦点をあててまとめたものです。単に列車編成を紹介するだけではなく、その背景にある鉄道史上のさまざまな事件や、高速化などといった時代の変化をも読み込んでおり、特に 1980 年代の特定地方交通線廃線時の最終編成は価値の高い「時代の記録」となっています。実際に自分の眼で見て確認することを大切にしてほしいという著者のメッセージが強く感じられ、足とメモで記録した北海道の列車史・車両史となっていることを評価し、本賞にふさわしい作品として選定しました。

■特別部門（1件）

・『ホジ 6014 号蒸気動車のすべて』リニア・鉄道館（2021）の出版および関連する企画に対して

リニア・鉄道館（名古屋市港区）では、同館で展示しているホジ 6014 が、2019（令和元）年に国重要文化財の指定を受けたことを機に「重要文化財・ホジ6014号蒸気動車のすべて」と題した企画展を2021（令和3）年3月～翌年1月まで実施するとともに、図録として本書を発行しました。単に車両を紹介しただけの図録ではなく、広範囲な調査記録の成果を網羅しており、復元保存にあたって十分な調査と考証が行われ、重要文化財指定に至った経緯が記録されています。本書では考証や時代設定の判断がいかにより慎重になされたかを示すことに多くのページを割いており、今後の文化財指定や車両保存の模範となる内容を含んでいます。文化財指定を機会に行われた企画展の開催やガイドツアーなど同館の活動と一体で、本賞特別賞に選定しました。

島 秀雄記念優秀著作賞とは

島 秀雄記念優秀著作賞は、毎年1回、鉄道分野に関する優れた著作物または著作物に関わる功績を選定し、鉄道および鉄道文化の発展に寄与することを目的として、2008年に新設された賞です(今回が第15回目となります)。

賞の名称は、鉄道友の会初代会長で東海道新幹線の実現に功績のあった島 秀雄氏(1901～1998)が、会の発展に尽くされた功績を永久に記念し、後進にとって励みとなる賞にするため、ご遺族の了解をいただいて、そのお名前を冠することとしたものです。

賞の部門は、以下の通りです。

- 1) 単行本部門…… 書籍の中から優秀な作品を選定します
- 2) 定期刊行物部門……定期刊行物に掲載された著作物の中から優秀な作品を選定します。
- 3) 特別部門…… 単行本や定期刊行物以外の著作物で選考委員会が特に認めるもの、または著作物の企画、複製、展示、頒布、その他著作物に関わる功績を選定します。

賞の候補は、過去3年間(今年は2019年1月1日から2021年12月31日まで)に発行された著作物(日付は、単行本、定期刊行物とも当該著作物に記載された年月日を基準)を対象としました。なお、著作者は、鉄道友の会会員に限りません。

賞の選考にあたって、鉄道友の会に島 秀雄記念優秀著作賞選考委員会を組織しました。賞のうち、単行本部門と定期刊行物部門は、鉄道友の会会員から推薦を行い、選考委員会を選定いたしました。また、特別部門の推薦および選定は、選考委員会が行いました。

なお、今回の島 秀雄記念優秀著作賞選考委員会は、鉄道関係の著作物に精通した鉄道友の会会員9名(委員長・大賀寿郎)で構成しました。また、今回の候補の推薦は、2022年1月より推薦受付を開始し、2022年3月31日(火)に締切り、単行本部門20作品、定期刊行物部門17作品が推薦されました。

添付資料一覧 (併せてご覧ください)

- ・鉄道友の会のご紹介
- ・過去の選定作品・対象一覧

本件につきましてのお問い合わせは、下記宛にお願いいたします。

〒102-0074 東京都千代田区九段南4丁目5番12号 ABEビル9階 鉄道友の会(本部事務局) 担当:鹿山、高嶋 Tel. & Fax. 03-5215-0305 URL https://www.jrc.gr.jp/

<添付資料>

第1回（2008年）選定

■ 単行本部門（2件）

- ・ 齋藤 晃「蒸気機関車 200 年史」NTT 出版
- ・ 関田 克孝「のりもの絵本—木村貞男の世界—」フレーベル館

■ 定期刊行物部門（3件）

- ・ 江原 光昭「京成電軌の四輪単車を再考する」
（電気車研究会『鉄道ピクトリアル』2007年3月増刊号掲載）
- ・ 小西 純一「余部橋梁」
（交友社『鉄道ファン』2007年7月号／8月号掲載）
- ・ 名鉄資料館「知られざる名鉄電車史」
（電気車研究会『鉄道ピクトリアル』2007年7月号／8月号掲載）

■ 特別部門（1件）

- ・ 鉄道史資料保存会（会報「鉄道史料」の継続出版に対して）

第2回（2009年）選定

■ 単行本部門（3件）

- ・ 長船 友則「山陽鉄道物語」JTB パブリッシング
- ・ 湯口 徹「日本の蒸気動車」ネコ・パブリッシング
- ・ 河田 耕一「鉄道風景 30 題」機芸出版社

■ 定期刊行物部門（1件）

- ・ 澤内 一晃「東京市の静脈物流と私有貨車」
（電気車研究会『鉄道ピクトリアル』2008年1月増刊号掲載）

■ 特別部門（1件）

- ・ 田部井 康修「上州を走ったトラム 伊香保電車」東武博物館

第3回（2010年）選定

■ 単行本部門（4件）

- ・ 和久田 康雄「日本の市内電車」（成山堂書店）
- ・ 関 崇博「門鉄デフ物語」（ネコ・パブリッシング）
- ・ 奈良崎 博保「九州を走った汽車・電車」（JTB パブリッシング）
- ・ 宇都宮 照信「食堂車乗務員物語」（交通新聞社）

■ 定期刊行物部門（1件）

- ・ 大熊 孝夫「雪国を駆けぬける「スノーラビット」」
（交友社『鉄道ファン』2009年5月号掲載）

■ 特別部門（1件）

- ・ 「日本鉄道旅行地図帳の刊行」に対して（新潮社）

第4回（2011年）選定

■単行本部門（3件）

- ・小林 正義「国鉄EF13形」ネコ・パブリッシング（2010）
- ・安保 彰夫「出石鉄道」ネコ・パブリッシング（2010）
- ・大田 治彦「西鉄電車おもいでアルバム」権歌書房（2010）

■定期刊行物部門（2件）

- ・初澤 毅「緩衝式車止めの形態と分類」（電気車研究会『鉄道ピクトリアル』2010年7月号～9月号掲載）
- ・堀岡健司「鉄道の掲示と行先標の変遷」（電気車研究会『鉄道ピクトリアル』2010年10月号掲載）

■特別部門（1件）

- ・「京阪電鉄百周年に関する著作物」の企画に対して（京阪電気鉄道）

第5回（2012年）選定

■単行本部門（2件）

- ・白土 貞夫「銚子電気鉄道」ネコ・パブリッシング（2011）
- ・三橋 克己、葛 英一、藤本 邦彦「オハ71形の一族」車両史編さん会（2011）

■定期刊行物部門（1件）

- ・渡利 正彦「岐阜地区の進駐軍輸送の実態を探る」（電気車研究会『鉄道ピクトリアル』2011年5月号／6月号掲載）

■特別部門（2件）

- ・「機関車表DVD版の制作」（沖田 祐作）に対して
- ・「貨車に関する一連の著作」（吉岡 心平）に対して

第6回（2013年）選定

■単行本部門（4件） ※発行日順

- ・辻村 功「鉄道メカニズム探究」JTBパブリッシング（2012）
- ・鉄道友の会客車気動車研究会「日本の食堂車」ネコ・パブリッシング（2012）
- ・小関 和弘「鉄道の文学誌」日本経済評論社（2012）
- ・鉄道の「知」を探る編集委員会「鉄道の「知」を探る」山川出版社（2012）

■定期刊行物部門（1件）

- ・澤内 一晃、星 良助「北海道の私鉄車両」（鉄道友の会『RAILFAN』2007年8月号～2012年6月号掲載）

■特別部門（1件）

- ・「機関車史研究会の一連の著作」（近藤 一郎）に対して

第7回（2014年）選定

- 単行本部門（2件） ※発行日順
 - ・ 浦田 慎（監修・貨物鉄道博物館）「貨車車票の歴史」（2013）
 - ・ 服部 重敬「名古屋市電」ネコ・パブリッシング（2013）
- 定期刊行物部門（2件） ※発行日順
 - ・ 斎藤 幹雄「ミャンマーへ行った日本型気動車 2013」（電気車研究会『鉄道ピクトリアル』2013年5月号掲載）
 - ・ 北村 拓「西武鉄道の旧型国電研究」（電気車研究会『鉄道ピクトリアル』2013年12月増刊号掲載）
- 特別部門（1件）
 - ・ 「車両側面のイラストによる一連の著作」（片野 正巳）に対して

第8回（2015年）選定

- 単行本部門（2件） ※発行日順
 - ・ 和田 洋「阿房列車」の時代と鉄道」交通新聞社（2014）
 - ・ 西 裕之「特撰 森林鉄道情景」講談社（2014）
- 定期刊行物部門（2件） ※発行日順
 - ・ 富井 規雄「都市鉄道直通運転のダイヤを考える」（電気車研究会『鉄道ピクトリアル』2014年6月号掲載）
 - ・ 岩成 政和「戦後ディーゼル機関車発達史の論点、争点、疑問点」（電気車研究会『鉄道ピクトリアル』2014年7月号掲載）
- 特別部門（1件）
 - ・ 生方 良雄 小田急電鉄に関する一連の著作

第9回（2016年）選定

- 単行本部門（2件）
 - ・ 高木 宏之「国鉄蒸気機関車史」ネコ・パブリッシング（2015）
 - ・ 中村 光司「知られざる連合軍専用客車の全貌」JTBパブリッシング（2015）
- 定期刊行物部門（1件）
 - ・ 野元 浩「狭小トンネル用PS23形パンタグラフ」（電気車研究会『鉄道ピクトリアル』2015年12月号掲載）
- 特別部門（2件）
 - ・ 「関西の鉄道」ほかの継続出版に対して（関西鉄道研究会）
 - ・ 「中国鉄道時刻表」の出版に対して（中国鉄道時刻研究会）

第10回（2017年）選定

- 単行本部門（2件）
 - ・ 中村尚史「海をわたる機関車」吉川弘文館（2016）

- ・大賀寿郎「路面電車発展史」戎光祥出版（2016）
- 定期刊行物部門（1件）
 - ・フリーランス・プロダクツ「ハイブリッド大全」（交友社『鉄道ファン』2016年1月号掲載）
- 特別部門（3件）
 - ・戦後日本の鉄道カラー写真に関する一連の著作に対して（ジェイ・ウォーリー・ヒギンズ）
 - ・「昭和天皇御召列車全記録」の編集に対して（新潮社日本鉄道旅行地図帳編集部）
 - ・「置戸森林鉄道」の出版に対して（橋爪実）

第11回（2018年）選定

- 単行本部門（2件）
 - ・名取紀之「紀州鉾山専用軌道」ネコ・パブリッシング（2017）
 - ・KEMURI PRO. 「阿里山森林鉄道」南軽出版局（2017）
- 定期刊行物部門（1件）
 - ・中山嘉彦「日本初の連節車京阪電気鉄道60型・びわこ号」（『レイル』No.103掲載）
- 特別部門（1件）
 - ・「釧路・根室の簡易軌道」（釧路市立博物館）の出版に対して

第12回（2019年）選定

- 単行本部門（2件）
 - ・久保ヒデキ「定山溪鉄道」北海道新聞社（2018）
 - ・風間克美「地方私鉄1960年代の回想」OFFICE NATORI（2018）
- 定期刊行物部門（1件）
 - ・山本直弘「駅ナンバリング考」（交友社『鉄道ファン』2017年12月号～2018年3月号掲載）
- 特別部門（1件）
 - ・「全国蒸気機関車配置表」（イカロス出版）の出版に対して

第13回（2020年）選定

- 単行本部門（3件）
 - ・清水武、田中義人「名古屋鉄道車両史」アルファベータブックス（2019）
 - ・青田孝「鉄道を支える匠の技」交通新聞社（2019）
 - ・在羽テヌヒト（田嶋玲）「黎明期の貨車移動機」交現社在羽製作所（2019）
- 定期刊行物部門（1件）
 - ・高田圭「JR奈良線の歴史を探る」（エリエイ『レイル』No.109掲載）
- 特別部門（2件）
 - ・「ニチュ機関車図鑑」（イカロス出版）ほか一連の著作に対して（岡本憲之）
 - ・「むかし、秋保まで鉄道が走ってた。」ほか一連の企画に対して（東北福祉大学・鉄道交流ステーション）

第14回（2021年）選定

■単行本部門（2件）

- ・藤原義弘『三池炭鉱専用鉄道の略歴と機関車』みらい広告出版（2020）
- ・西脇 恵、泉 竜太郎『よみがえる記憶・北陸の鉄路』中日新聞社（2020）

■定期刊行物部門（1件）

- ・小野田 滋、加藤幸弘、遠藤晃一、大菅 直「京都市交通局2号電車について」（エリエイ『レイル』No.116掲載）

■特別部門（2件）

- ・佐藤良介『京急230形』（ネコ・パブリッシング）ほか一連の著作に対して
- ・椎橋俊之『鉄の馬と兵ども』（イカロス出版）ほか一連の著作に対して

以上